

『ろう通訳』（6月10日配信）

こんにちは。戸田です。

今日は卒業式にろう通訳がついたお話です。私が勤務するろう学校には、幼稚部、小、中、高等部があります。3月の卒業式は個々の学部で行います。

幼稚部は5年前くらいから聴通訳ではなくろう通訳がついて卒業式を行っています。小学部、中学部も3年前くらいからろう通訳がついています。高等部にはついていません。

私のような教師側から高等部の卒業式にもろう通訳を付けるべきだと行動するのは簡単です。しかし、必要性を訴えるのは生徒であるべきです。今まで高等部の生徒からそのような要望はありません。しかし今年の高等部3年生が卒業式にろう通訳を付けてほしいと学校に要望したのです。

当事者から要望を受けて、高等部で協議しろう通訳を付けることになりました。ろう通訳は私が引き受けることになりました。高等部の卒業式にろう通訳がつくのはこれが初めてです。今の三年生は幼稚部の時2年間担任した子たちです。ろう通訳としてですが卒業式で彼らを見られることがとてもうれしいです。高等部の卒業式に幼稚部の先生は出席できません。幼稚部の子どもたちがいるので、卒業式に出席することはできません。でも今年はろう通訳として、幼稚部のことは他の先生にお願いし、正装し通訳しました。大きくなり正装の彼らを通訳しながらでも見られたことは幸せでした。卒業後も頑張っしてほしいと思っています。当事者が要望するのは、社会に出てからも必要なことです。それを三年生で自分のため情報保障のためにろう通訳をつけてほしいと要望し行動できたことは非常に良い経験だと思います。卒業後の社会でもその力は求められます。必要に応じて要望し行動することが在学中にできたことは非常によかったです。